

会 議 概 要

会議の名称	令和2年度 第1回 八尾市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和2年8月5日(水) 午後2時00分開会
開催場所	八尾市役所本館8階 第2委員会室
会長 氏名	花嶋 温子 (大阪産業大学デザイン工学部 准教授)
出席者(委員) 氏名(人数) 敬略称、順不同	鈴木 靖文(立命館大学 非常勤講師) 吉川 正史(近畿大学法学部 准教授) 石村 雄一(近畿大学経済学部 特任講師) 中浜 多美江(八尾市女性団体連合会 事務局長) 菅 春水(八尾商工会議所 常議員) 西田 裕(八尾市自治振興委員会 会長) 木下 次郎(八尾市地区福祉委員長連絡協議会 副会長) 岡ノ谷 圭二(㈱イトーヨーカ堂八尾店 管理統括マネジャー) 岩田 志郎(八尾工場地元連絡協議会 会長) 山本 賢(八尾市高齢クラブ連合会 会長) 上田 雅範(連合大阪八尾柏原地区協議会 事務局長) 笠原 征郎(公募市民委員) 齊藤 美奈(公募市民委員) 向井 須子(公募市民委員) 計15名
欠席者(委員) 氏名(人数)	川本 健太郎(神戸学院大学リハビリテーション学部 准教授) 林 滋(八尾市商店会連合会 理事長) 寺西 幸雄(八尾市小売市場連合会 会長) 北山 美恵子(公募市民委員) 前田 吉繁(公募市民委員) 計5名
事務局の出席者	八尾市 資源循環課、環境保全課、環境事業課、環境施設課、産業廃棄物指導課 コンサルタント 株式会社グリーンエコ(2名)

発言者	内容
次第1 開会	
次第2 環境担当部長挨拶	
次第3 委嘱状交付	
次第4 委員および事務局紹介	
次第5 会長及び副会長の選任	
事務局	八尾市廃棄物減量等推進審議会規則第4条第1項の規定より、審議会の会長及び副会長を委員の互選によって決定。 「事務局」一任)の声があり、 会長：花嶋委員 副会長：鈴木委員 の兩名を指名 出席者の異議なしのため両委員をそれぞれ会長・副会長に選任。
会長	会長就任あいさつ。 次第6 八尾市のごみ処理体系等について、資料を基に説明をお願いする。 なお、説明については、資料の大項目ごとに行い、その後質疑の時間を設ける。
次第6 八尾市のごみの概況等について	
事務局	事務局から資料1のうち「八尾市のごみの概況」について説明
会長	八尾市の全体の話であるが、特に意見がなければ次に進む。なお、一般廃棄物は市町村が処理する責任があり、それぞれの自治体で処理の仕方が違う。そのため各市町村で今後どう処理していくかを決定する必要があるため、当審議会が開催されているということである。
事務局	事務局より資料1のうち「八尾市のごみ処理体系」について説明
A委員	各自治体でごみの処理は違うが、八尾市の場合は大阪広域環境施設組合という八尾市、大阪市、松原市、守口市の4つの市で運営する八尾工場にごみ搬入している。各自治体で分別品目等違うと思われるが、整合性は図れているのか。
事務局	資料の3ページの中段の上の可燃ごみは、大阪市、八尾市、松原市、守口市、ほぼ同じものが焼却工場へ搬入されている。容器包装プラスチック、ペットボトルは、各市で若干分別の区分が違うが、可燃ごみ以外の分別された八尾市の分としてはリサイクルセンター等に搬入されており、他の自治体についても同様の対応となっているため、整合性が図れている。
事務局	事務局より資料1のうち「これまでの取り組みと現状について」説明
B委員	ごみの減量が進んでいることは分かるが、ごみ袋の配付量は、どうか。ごみの分別を進めるために、八尾市はごみ袋を無料で配っているが、有料になるような流れ、今後の取り組みについて、自治振興委員会でも運営方法を考える必要が出てくるので示されたい。
事務局	ごみ袋の配付量は、ごみ袋の見直しの後に追加ごみ袋を取りに来る件数は一気に減った。変更前は、市役所に来たついでにごみ袋をもらって帰る者が多く、

	<p>数字からも判断できた。ただ、ごみ袋を見直し後は、介護等で枚数が多く必要な方へ最初から配付したことや、少しごみ袋が小さくなった分、しっかり分別が行われた効果があり、取りに来られる者は減っている。</p> <p>さらに分析では、一人、二人世帯等、人数が少ないところは、最初から渡す枚数で十分足りているが、4人、5人、6人と世帯人数が多くなると取りに来る者が多いという傾向が出ている。</p>
B委員	<p>ごみの減量は進んでいると思うが、収集日に出ている家庭ごみを見たら、袋の中の量が減っており、一杯になってない。当初は、一杯に詰めて出していたが、今は非常に中身の少ないごみ袋が多い。ごみ袋が非常に余っているのではないかと。袋が足りない方もいると思うが、ごみ袋も一つのごみになるのだから、ごみ袋もごみということ意識し、無駄のないごみ袋の使い方にして頂きたい。無料であるのだから。</p> <p>私が言いたいのは、有料化にすると恐らくごみ袋を無駄にしないと思う。できるだけ詰める、ごみ袋を小さくしてもそうしようとする。今は、ごみ袋が十分にあるから、袋の中は少ない量になる。そういう現状を把握すれば、工夫が考えられると思う。ごみの袋が変更され、旧の袋を返してくださいと言われたとき、非常にたくさんの量があったと思う。今、また袋を変更して返すとなると、すごい量が集まってくるはずで、だからこそ、ごみ袋が足りないところは、なぜ足りないのか検討するのと、行政は、水を切ってくださいとかごみの出し方等を発信しているが、それが守られてないので、重いごみが非常に多くある。これは、袋が無料であり、いくらでも次出したらいい、足りなかつたらもらいに行ったらいい。これが、市民の声でありそこを把握すると、いつまでも無料にするのがいいのかどうか考える必要があるのではと思う。</p>
C委員	<p>アルミ缶の問題で、アルミ缶が全く無くなって、いわゆる鉄製の缶だけが残っているというような問題は、八尾市として黙認しているか。</p>
事務局	<p>アルミ缶の問題は、八尾市を含めて大阪府内の他自治体でもアルミ缶の抜き取り、持ち去りに苦慮している状況にある。八尾市では水曜日に市内の半分の地区が資源物で、次週がもう半分の地区ということで、水曜日に資源物が出されており、当然、持ち去りは黙認していない。条例にも根拠を示し、抜き取りをしている者に対し注意を促すため、警察OBの職員と共にパトロールしている。</p>
C委員	<p>アルミ缶の回収に対して補助金が出るとの点はどうか。</p>
事務局	<p>アルミ缶回収の補助金は、有価物集団回収の奨励金のことと思われる。町会や子ども会など八尾市で活動している団体が、段ボールや新聞等古紙類と、缶類、スチール缶とかアルミ缶、ウエス、古着等そういった専ら物という区分に当たる有価物を集める活動に対して補助金を出している。</p> <p>当然、市中で回収している個人に対する補助金や、回収業者、買取業者に対する補助金もない。買取業者へは、八尾市は指定袋に入っている空き缶の買い取りを行わないように指導している。</p>
C委員	<p>リサイクルの問題で、ペットボトルとプラスチックの分別で迷ったのは、サラ</p>

	<p>ダオイルの容器がペットボトルだと思ったら、そうではない。これは、あくまでもプラスチックであり、その辺の分類がよく分からないが、もしそれをペットボトルの収集日に出したら迷惑なのか。</p>
事務局	<p>醤油のボトルや油のボトルがペットボトルではないかと思う人もいるが、そういったものはプラマークといって容器包装リサイクル法で決められたマークがついており、容器包装プラスチックで出すようお願いしている。その辺の啓発については行政が詳しく分かりやすいようにすべきと考える。</p>
D委員	<p>粗大ごみの関係で、私たちの団体も暮らしの相談をしており、日々、このごみは、どう廃棄処分をすればいいのかという問合せが多いのだが、粗大ごみ専用のダイヤルを紹介すると、またその人から連絡があり、対応がきちりして、優しく分かりやすい対応だったということで、タンスや布団などの、幅や奥行きが何センチといったサイズのことも教えてもらえ良かったということで、まず、そのことを報告する。</p> <p>収集作業を市職員が行っているというところで、日々、「ご苦労さま」と声を掛けていますが、職員が困っていることや、苦労といったものが、私たち消費者に聞こえてこないと思うので、そういった声も、聞かせてもらえれば、協力もできるのではないかと考えている。</p>
会長	<p>コロナのとき、あちこちで収集ありがとうとかいうような声が上がったというような話があったが、八尾でも何かあったか。</p>
事務局	<p>粗大ごみについては、専用ダイヤル、粗大ごみ受付センターがあり、八尾市では委託に出している状況である。コロナの話が出た中で、粗大ごみについては、緊急事態宣言が出て家庭にいる時間が長くなり、申込件数が増えた状況あった。一方で受付センターの事務所が東京にあることで、オペレーターが、時差出勤や、出勤人数を減らしたという事情で、受付のレベルが若干落ち、迷惑をかけた部分があり、待ち時間が長くなったことについては、大変申し訳なく思っている。</p> <p>一般収集は、各家庭がきちんと分別して、出しているからなので、収集が効率よくできている。現在あえて問題点があるとすれば、カラスや動物等がごみ袋を荒らすことで、ごみ袋の中が散乱し収集に時間がかかってしまう。あと、八尾市の場合は、原則、戸別収集で、各家の前へ出している分は分別がされており収集もしやすいが、一方で何世帯か集積する、あるいは集合住宅のごみ置き場などでは若干、早めの搬出や、分別ができてないものなど見受けられる。</p> <p>最後に、コロナに関しては、全国的に報道がある中で、感染リスクということもあるが、一方で、丁寧な搬出により感染リスクが下がるという報道もあったことで、市民の協力をいただくと同時に、メッセージを直接お渡しいただいたり、手紙に併せてマスクを頂戴したり、たくさんの市民の方のご厚意に対して、この場を借りてお礼を申し上げたい。</p>
B委員	<p>少しアイデアとして紹介したいのが、ペットボトルの話で、今も続けているかどうか分からないが、柏原市で学校の行き帰りの道で拾ったペットボトルを子</p>

	<p>どもに持ってこさせ、学校が処分するという事例があった。結果、町から落ちているペットボトルが消えたということで、ある学校の子どもが落ちていたペットボトルを持ってきて、先生どうしようとしてきて、これは良いことをしたと全校生徒に先生が伝え、それから学校に持ってくるようになり始まった。結果的にペットボトルを1か所に集中させることで、家庭にたまらず、道路にあふれず、学校で収集される。そしたら、学校まで横から抜き取れる業者もなく、事業所も1か所に収集へ行けばいいと、その取り組みが非常に良かったということで、そのときの市長が生徒たち、学校に対して感謝状、表彰状を出したという事例があった。住民もどういう方法であれば、それが解消できるのかと、考える必要があると思うので、八尾市さんは「何でも出したら回収します、無料です」ではなく、やはり協力してほしいということを伝えたほうが良いと思う。我々も自治組織なので、その辺も考えて、ごみの出し方やごみの収集場所という例として、柏原市の小学校の成果ということで、紹介する。</p>
事務局	<p>今回の計画の中で、そういった視点も念頭に置き、またアイデアも考えていきたい。中々発信が上手くないところもあり、発信手法も含めて考えていきたい。</p>
事務局	<p>事務局より資料1のうち「八尾市の位置付け（他自治体との比較）」について説明</p>
事務局	<p>事務局より資料1のうち「国の方針及び大阪府の計画」について説明</p>
B委員	<p>この数字を見るにあたり、目標を大きく下回っており、啓発だけでは済まないと思うが、その辺はどう考え、どういう対策を考えているのか。</p>
事務局	<p>資料10、11ページに、それぞれの計画や方針で示している目標と八尾市の数値を出しているが、例えば再生利用率は大きくかけ離れているのが現実的にある。今、八尾市のリサイクル率は、新聞や段ボールといった古紙類で多くを占めており、今、新聞は発行部数が国全体で減り、雑誌も電子書籍に代わるなどして、紙そのものが減っていることから、再生利用率も減っている。再生利用率が低いから八尾市は駄目かという、必ずしも言い切れないところがある。今後の目標を考えていく上で、一人一人の意識が大切になり、一人が一日に出すごみの量を減らすことを目標に考えることが、わかりやすいのではないかと考える。</p>
B委員	<p>今日、来ている職員は、環境のことについて関心度が高いと思うが、本庁では、なぜ分別をしないのかと思う。本庁では、プラスチックも紙くずも一緒に産業廃棄物として、事業所として考えており、それでいいという答えしか返ってこない。一般市民へ減量や分別を訴えるには、やはり本庁の中でもその意識を高く持たないと、環境の事務所では、そういうことはないと思うが、本庁を見ていたら何もかも一緒に排出していることが非常に見える。一般市民がこのことを知ったら、分別等に協力するのは、なかなか難しいと思う。足元からやっていかないと市民もついてこない、やはり、ごみというものは、どこでも問題があるので、これが受益者の負担にするのか、それを出している事業所の負担にするのかというのは、はっきりさせたほうが良いと私は思う。今、スーパーでも、家にプラスチックごみを持って帰りたくない、器を開けてタッパーに詰め替えて持</p>

	<p>って帰る人がいる。そしたら事業者がごみを捨てるための費用がかかってしまって、悲鳴を上げており、そこにしわ寄せが行っているということがあるので、やはり、こっちが立てれば、こっちが立たないということが非常に見えるので、全体的なところを見て、一人当たりのごみというものを、しっかりと見据えていかないと、ここだけを見ていて全体の八尾市のごみが減ったなということは見えないと思う。</p> <p>だから、先ほど言ったように、ごみ袋も量があれば、それはごみなので、ごみを無料でやっているようなものではないという。やはり、ごみを捨てるのにはお金がかかるということを、もっと住民に意識を持ってもらい、職員も、その辺を訴えていかないと、いつまでもこの方針ではもたないと私は思うので、経営者側としての答えかもしれないが、やはり、その辺の意識の改革というのが非常に大事なかなと思う。</p>
E委員	<p>10 ページの上の表ですが、一人一日当たりのごみ排出量の目標数値が 850 グラム、ところが元年度の実績は 832 グラム。これは、何か増える要因というものがあって、それを抑えて、こういう数字になるのか、目標のほうが多いのが疑問に思う。</p>
事務局	<p>この 850 グラムは、国の計画で 2025 年度に一人 850 グラムを目指すということで出された目標であり、八尾市に置き換えると、去年は下がっている。ここだけで見ると、もう目標は既に達成しているということに見えるが、実際、このごみ排出量は、家庭ごみプラス事業所から出るごみを足したごみ量を人口と日にちで割って出たもので、今、ここだけ見ると基準をクリアしているからといって、今後、2年後、3年後、2025 年にも、この 850 グラムをクリアしているかと言えば、難しいところがあり、引き続き目標を下回るように、減量に取り組む必要がある。</p> <p>この数値目標というのは国が立てている数値目標ということで、それに対して、現状の八尾市はこの部分ではクリアしているということになる。国の立てている目標が、一人当たりのごみの排出量は一日 850 グラムぐらいを目指すという指針があり、八尾市は、これについては達成しているということになる。2つ目の一人一日当たりの家庭ごみ排出量については、国は 440 グラムと目標を立ており、八尾市はそれに対して現状 489 グラムということになる。</p>
B委員	<p>国の指針は、目標、目標と言われているが、それに近づいたから、それでいいのかということとは疑問に思う。やはり、それを超えていかないと八尾らしいものが出てこないと思う。国の目標を達成し、それでよしとしたら、先が見えない。指針については、それで完全じゃなく、せめて、ここまで来てくださいよということだと思う。それを超えていく覚悟でやっていかないと、今の「達成できています」という答えは、納得できない。達成できたから、我々が暮らしやすいまちになっているのかというと、そうじゃない。せめて、ここまで来てくださいということで、恐らく達成できたら、国は数値を減らしてくると思うが、そこを先取りしていくような覚悟をしてもらいたい。</p>

F 委員	<p>いつもプラスチック製品を出すときにリサイクルするものは、きれいなものを出す。そしてリサイクルできないもので汚れているもの、例えば先ほどのサラダオイルとか焼き肉のたれの瓶は、きれいにするのが不可能。その場合、できるだけ可燃に出しているが、汚れた焼き肉のたれの瓶は、どうしようもなく、汚れたものを資源ごみとして出している。それが、すごい気になる。</p> <p>また、昨日のテレビで、今まではプラスチックとペットボトルを分ける。見ていると、お風呂の中のプラスチックでできた椅子を一緒に入れてあるから、これは違うのにと思っていたが、テレビでやっていたのは、プラスチック製品もプラスチックの回収に回るようにする。リサイクルに回すようにするという報道があったが、現実には、シールを貼られて回収されずに置いていかれている。今は、テレビなどの報道でそれに乗ってしまう。周りがどうか、法律がまだでも。今後は、八尾市の回収に当たって、そのようなものが混ざると、回収されずに残ってしまうのか。</p>
事務局	<p>我々の中でも、新聞報道より前に若干情報は得ていたが、今のところ、確定的なことをお答えはできない。今後2年後ぐらいに設定されていると思うので、今後、詳細が分かりその中身を見ながら、八尾市の現状の収集体制の状況の中で、集めてきた後の処理方法にも影響が出るため、そういったところを見極めながら進めていきたいと考えている。現状では、プラスチック製品が一緒に入ると、置いていかざるを得ない。</p>
F 委員	<p>もう1点、新聞と段ボールは出していたら回収はせずに残ってしまうか。</p>
事務局	<p>通常の収集と思うが、定曜日収集ということで、この地区はこの曜日に可燃ごみ、あるいはこの曜日に容器包装プラスチックと、指定袋に入れて出してもらうということで、冒頭、話があったように、スプレー缶とかだけは別の袋だが、要は袋に入った分を収集している現状なので、収集場所、排出場所に新聞紙が置いてあったり、段ボールが置いてあったりということがあれば、収集はしない。</p>
次第7 次回日程（スケジュール）	
事務局	<p>次回の日程は、9月11日金曜日午後3時から、水道局3階の大会議室を予定している。なお、水道局は、駐車場のスペースが非常に狭く、車で出席の場合は本庁舎の地下駐車場に車を止め、徒歩で水道局へお願いしたい。</p> <p>また、現在のコロナ禍の影響で、開催日程の延期、また開催方法を書面開催やオンライン開催などに変更する可能性があり、その際は速やかに委員に知らせる。</p>
次第8 その他（アンケートの件）	
事務局	<p>アンケート調査案は対象が八尾市民2,000名で、人口比率に応じて年代別の割合を出し、20代から60代の10年ごと、及び70代以上を区分して男女無作為に合計2,000名の市民にアンケート調査することを考えている。</p> <p>アンケートの構成は、回答者の基礎情報、前回計画策定時のアンケート内容である全体のごみ問題について、また八尾市のごみ行政について、身の周りのごみ問題について、そして現在、マスコミ報道等でも取り上げられているプラスチッ</p>

	<p>クゴミ問題への対応、レジ袋の有料化、食品ロスへの対策についての大項目と、最後に自由意見という構成となる。次回の審議会の際に、このアンケート案について忌憚のない意見をもらいたい。</p>
会長	<p>アンケートについては、実施方法等々この宿題そのものではなく、今の説明等について何かあれば。</p> <p>なければ、次までに、このアンケートを見て、たくさん意見を頂戴したい。</p>
事務局	<p>その他として今、事務局からパンフレット、チラシを配布するが、持続可能な社会を目指す検定ということで、花嶋会長、鈴木副会長が主催ということで、紹介があったので、お願いしたい。</p>
会長	<p>13回目、12年やっており、もし興味があれば受けてもらえればと。</p> <p>最後に、今回、事務局が、飲み物を用意しているが、いろいろ考えた末、紙パックにしたと思う。この会議は、ごみについて考える審議会であり、できれば、この紙パックもなくてもいいと思う。今回も、副会長は持参しているが、何か飲み物が必要ならばマイボトル等をお願いしたい。次回からごみを出さない審議会ということで、やっていけるのではないかと思うが、いかがか。(全委員了承)</p> <p>ということで、次回からは、必要であれば飲み物を自身でお願いします。</p> <p>以上で、本日の会議を閉会する。</p> <p>(閉 会)</p>